

2019年度「なごや環境大学」実行委員会 総会 議事録

日 時：2019年5月20日（月）15：30～17：20

場 所：愛知学院大学名城公園キャンパス アガスタワー10階アガスタホール

出席者 総出席者	56名	（委任状含む）
・委員長	1名	
・学長	1名	
・実行委員	17名	（出席委員13名、委任状4名）
・監事	2名	
・参与	9名	（代理出席含む）
・チーム員・関係者	9名	
・事務局	7名	
・傍聴者	10名	

1 はじめに

司会挨拶より総会開始

- ・寺西主幹の司会で総会開始。当総会は公開であることを言及。

（1）委員長挨拶

堀場委員長挨拶

本日は御多忙の中ご出席いただきありがとうございます。また平素より名古屋市の環境行政に対し様々な分野でご協力とご理解を賜りまして、重ねて御礼申し上げます。

なごや環境大学はごみ非常事態宣言を契機としました、ごみ減量の活動で培った、市民・事業者の皆様と協働の力をベースに立場や分野を越えた様々な方と環境首都なごや、そして持続可能な地球社会を目指し、多くの学びの場を提供してまいりました。このような学びの仕組みが続けられているのも、なごや環境大学に関わる皆様方のご尽力の賜物であると考えております。感謝申し上げます。

なごや環境大学は、来年3月に開学から15周年を迎えます。この間、皆様方の環境意識の高まりとともに、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、持続可能な開発目標—SDGsへとフィールドを広げてまいりました。今後もなごや環境大学では、持続可能な未来に向けて市民一人ひとりに環境にやさしい活動に取り組んでいただけますよう、分野や主体、世代を越えて学び合える場を推進したいと考えております。

本日の総会では昨年度の成果をご報告し、今年度の事業計画等についてご審議いただきたいと存じます。今年度もこれまで築いてまいりました人のつながり、行動する人の輪をさらに大きくできるよう取り組んでまいりますので、皆様からご忌憚のないご意見・ご提案をいただければ幸いです。今後とも皆様方の格別のお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

(2) 実行委員等の異動について

○参与の異動について

資料に基づき事務局から説明。

2 議事

本日は定数21名の委員のうち委任状含め19名の実行委員に出席を頂き、3分の2以上の出席であるので、規約第11条第2項に基づき本日の総会は有効に成立している。

また、本日の議長は規約11条第1項により堀場委員長が進行する。

第1号議案：「実行委員及び学長の選任」

実行委員及び学長の選任（案）・・・「議案集 P.1」

規約第4条3項に基づき実行委員の選任、規約第4条4項に基づき学長の選任（任期満了に伴う再任）を行うため、議長が審議を諮る。

第1号議案は拍手で承認される。

涌井学長挨拶

まずは8人の実行委員の1人の代表として、ご推薦をいただき厚く御礼申し上げます。

私は2015年7月に就任し5年目となりました。その間、できる限りの改革をしたいと考え鋭意努力してきました。基本には、なごや環境大学が創造されたときの精神やその時期にご尽力いただいた方への感謝を忘れてはいけないということで、アドバイザーボードを設けました。かつ、創造的にダイナミックに、どのようになごや環境大学を進めていくのか、この両方に手をかけてきました。

創造性の方の行動としては、1999年のごみ非常事態宣言から20周年ということで2月に行った催しも皆様のご協力により大盛況のうちに幕を閉じ、同時に若い方々がそのあとに続いてくださるような雰囲気ができあがった。また、名古屋における各大学との連携、SDGsという方向に向けてなごや環境大学がどのように役割を果たすのか、未来都市なごやを目指す上で、なごや環境大学が可能な限り扇の要の役割を果たせるのではないかと考えた。しかし、一つ一つが実行するようになり、自分も長く務めさせていただいたので、学長の任もこれでいいだろうと相談したが強くおひきとめいただき、今この場に立っている。

実行委員の皆様にはアドバイザーボードを含めて交流いただいているが、日本に市民力がつくという意味では、なごや環境大学を含めて名古屋は日本的なモデルとなる。SDGsの最終アウトプットである2030年に「だれもが取り残されない社会をつくろう」ということがあるが、社会的大変容を必然とする未来社会において、市民一人一人が立ち上がらない限り持続的な地球の未来はない、今や我々人類がレッドデータブックの筆頭にある、という自覚を深めながら、課題にしっかりと取り組んでいける体制と仕組みを託されたと理解して、任期中は努めたい。

「環境の取り組みは名古屋に学べ」というのが今、日本の風潮であります。藤前干潟、愛・地球博、COP10、ESD ユネスコの催しがずっと続いてきて、将来はアジア競技大会、リニア新幹線が開けてくるが、そのようななか、環境首都なごやが SDGs のゴールをどう目指していくのかということで、様々なかたちで一関連の省庁、参与の皆様も本日までご出席を賜っておりますので、皆さんの力を結集して進んでいきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

続いて、規約第13条に基づき、学長により代表幹事として大鹿委員が指名された。
拍手で承認される。

第2号議案：「2018年度事業報告（案）」

2018年度事業報告（案）・・・「議案集 P.2～13」「2018年度活動報告書」

議案集に沿った形で2018年度の活動方針と重点取り組み事項に基づくそれぞれの総括報告が行われた。以下の順に、報告が行われた。

松本委員（企画チーム）

杉野委員（活動サポートチーム）

西野委員（広報チーム）→欠席のため代理 蒲委員（事務局長）

平石委員（ユースチーム）

西野委員（ごみ非常事態宣言20周年事業（以下「ごみ20事業」と表記））→欠席のため代理 遠山（事務局）

最後に全体総括として、大鹿代表幹事より報告が行われた。

各チームの報告で触れられなかった部分を含め全体総括をまとめたので、それらを中心に紹介させていただく。

・重点取り組み（以下、「重点」）2：なごや環境大学も10年を超え、実行委員会もメンバーがだいぶ代わってきた。10年を越え委員を退任された方々にも実行委員経験者として、またその専門性を引き続き活かしていただくためにも場を作ろうということで、「アドバイザリーボード」として新たに御協力をいただく、ということとした。

・重点3：「まちじゅうがキャンパス」を掲げるなごや環境大学で、実際の場の提供として、キャンパスネットワーク登録制度を新たに始めた。現在のところ4箇所の登録となった。

・重点5：評価指標と評価方法は重要な問題だが、確実な設定がまだできていない。今後も継続的に取り組んでいきたいと考えている。

・重点6：外部資金導入を図るために、重点7：ブランディングの議論を重ね、ある程度の方向性を決めた。それをもとに、今年度も各事業展開を進めていきたい。

第3号議案：2018年度決算（案）

2018年度決算（案）・・・「議案集 P.14～20」

議案集に基づき事務局から説明。その後事務局から説明のあった決算書につき 2 名の監事による監査が行われていることを案内。監査結果について、監事を代表して加藤明司監事から「監査の結果、適正に執行管理している」旨報告された。

質問及び回答、意見交換等

香坂参与：考え方として、予算があってそのなかで活動をしていこうという考え方なのか、少し上回るように実施されていることがよい（次年度に向けて説明しやすくなる）、という考え方なのか。これからコンパクトにしていくのかなど全体の方針として伺いたい。

前向きに評価できるのは受講料収入など、取る前提だが理由がありとれないということであれば前向きな結果である。ただ協賛金が 0 なのは寂しいと思う。

→事務局：役所から負担金収入としていただいたものはその枠内で計画するのが原則。今年度、期の途中で追加収入があったのはごみ 20 事業がなごや環境大学で実施するのにふさわしい事業ということで計画していく中で追加していただいたもの。今後は、他から獲得して進めていくことも考えられるのがなごや環境大学の考え方としてはあり得る。

→大鹿代表幹事：ごみ 20 事業だけでなく、年間の全体予算と事業計画の立て方についてご質問いただいているのだと思う。ここ数年は市からの予算が右肩下がりのため、型にはまった事業計画を立てるのでなく、4 期ビジョン以降、外部資金など協賛を含む収入が得られるようにするために、ブランディングをしっかりと立て、方向性を示して、実現しよう意識している。予算枠のなかで収まるような事業計画だけでなく、「こういうことはやっていかなければならない」と必要なものについては事業として組み、そのために必要な資金は外に向けても収入を図っていききたいという考えで実行委員会として動いている。

第 2 号議案、第 3 号議案とも拍手で承認される。

第 4 号議案：2019 年度事業計画（案）

2019 年度全体方針、各チーム方針（案）・・・「議案集 P. 21～30」

議案集に基づき各実行委員から説明。・・・以下説明骨子です。

大鹿委員（全体方針）

活動方針は 3 点、重点取り組み事項（以下、「重点」）は 8 点。2018 年度より継続する重点 1～6 に加え、新たに 2 つ加わった。

⇒重点 7：昨年はごみ 20 事業があったが、今年は COP10 から 10 年、名古屋市自体も未来都市に向けて動いている。また、森林環境税のプロジェクトなども動かしながら SDGs 達成に貢献していこうという方針である。重点 8：なごやの環境は平成の時代に大きく動いてきた。

30年をふりかえりながら令和の新たな視点を創り出したい。

松本委員（企画チーム）

2018年度の課題を踏まえた方針。すべての事業においてSDGsを念頭に置く。3つの方針（なごや環境大学の存在感と求心力を高める、より学びを深くし、インフルエンサーになっていく人々を培う、環境無関心層・新規層を含め多様な主体を集める）を実現するための重点事項。

⇒重点1：モデルとなる事業で具体的に「SDGs ハッピーラン&ウォーク」を企画中。大規模イベントでメディアにも取り上げていただきたい、期待感のある事業としたい。重点2：しっかりした環境情報を提供する機会を作りたい。別添の通り7/9には「環境白書から実践へ」という主催講座を開催する。重点3：多様なテーマ、間口を広げた事業を展開し、いろんなアンテナにかかり、関わる人を広めたい。参与、アドバイザーはじめ、たくさんの人の力を借りながら進めたい。

吉田委員（活動サポートチーム） ※今年度よりリーダー。

共育講座・共育ゼミナールの充実を図ること、団体の交流の活性化を図ることの2点が方針。

⇒重点1：講座新規企画者の増強。どんな仕組みを組み立てていくかを考えていく。重点2：は講座・ゼミナールのあり方の検討。昨年度見直した募集要項・審査基準を実施してみたの検証を行い、ブラッシュアップしていく。重点3：団体や活動の見える化とスキルアップのサポート。リソースマッチングということで、今まで見える化していなかった団体の情報をデータベースとして構築した。団体同士で課題解決のために他の団体と組んでみよう、というマッチングを行えるような仕組みづくりをしようと公開を目指している。また、昨年度実施した講座団体に向けたスキルアップ講座が好評だったため引き続き実施したい。

杉野委員（広報チーム） ※今年度よりリーダー。

方針としては、全体報告でもあったブランディングのまとめをもとに、ブランディングアクション（中長期の広報戦略の検討と一部実施）をしていきたい。

⇒重点1：ブランディング戦略のための広報ツールの整理と重点2：イメージ戦略の検討。ガイドブック表紙などの優先事項については一部実施をしていく。重点3：各チームを支援するため各事業や旬なトピックを発信するためメディア広告やプレスリリースを強化していく。重点4：注目度の高い話題や新規の情報収集をし、発信するテーマを選びコンテンツづくりを行いたい。また、情報発信の方法の検討や活動サポートチームのデータベースの活用促進なども図りたい。

鵜飼委員（ユースチーム） ※今年度よりリーダー。

まずはサポートの立場からユース主体で実施していく方針。失敗からも学びながら、そのような中でもユースがしっかりと自信を持って進められるようにしたい。

⇒重点1：エコアクションとしてワッカモノビレッジの継続、ユースが企画する活動の適切な支援の仕組みの検討をする。重点2：環境への関心が低いユースを惹きつけるために「若者が

若者に発信する」企画、また、なごや環境大学の認知をねらいとした共育講座への参加促進企画を展開。重点3：ユースを中心としたネットワークを強化するための交流会や意見交換会を企画し、学生だけでなく社会人ユース、既存の環境団体とのネットワークをつくる。また協定を結んだ大学との連携授業なども継続する。重点4：参加学生のメリットの拡大や質的満足度向上を図り、PRのためのツール検討。ユースの「誇り」を醸成する。

蒲委員（森林プロジェクト）

森林環境譲与税を背景に、なごや環境大学ならではの取組みをプロジェクトとして実施したい。
⇒重点1：名古屋ではない山間部の森林管理の現状を把握し、課題解決に向けた仕組みの検討と提案を目指す。重点2：なごや環境大学の資源である講座団体等が交流し強みを活かしあえる協働のコーディネートを図る。重点3：事業成果を広く展開するために事業検証を行い、効果的な手法と改善策を整理する。重点4：事業終了後も、各地域・団体が継続・発展的に活動するための交流と協働の仕組みづくりを目指す。

増田委員（SDGs 未来創造クラブ事業（仮称））

議案集 29P は名古屋市から内閣府への未来都市申請に使用した資料。今後3年間かけてSDGsへの活動をしていくことで未来都市としての称号を得られるというもの。現在は審査中。これから環境大がこういったことを進めていけないか、という提案。

⇒環境大内にコンソーシアムを設置。2つのチームを設ける。(1)は錦二丁目を実施。まちづくりを進めていくプロジェクト。(2)は産官学連携チーム。SDGs 学習プログラムを制作する。子どもたちの多様な感性を導きながら、その先にSDGsの視点がつながるようにしたい。

具体的には各チーム内で議論を進めていくので現時点では概要まで。事業選定の決定は6月。選定された内10自治体にはモデル地区として補助金の交付があり10月に受領し年度内に一定の事業を進める。全体会議で説明するため、予算組は全体会議にてお認めいただきたい。

第5号議案：2019年度予算（案）

2019年度予算（案）・・・「議案集 P.31」

議案集に基づき事務局より説明が行われる。収入の部の説明。支出の部の説明。各チームの事業費はチーム予算に振り分けたこと、森林プロジェクト、SDGs 未来創造クラブ事業は別枠を設けたこと等を説明。

質問及び回答、意見交換等

香坂参与：森林プロジェクトについてお伺いしたい。森林環境譲与税は、今後全体的には3倍まで増えていくことが予想されているが、本プロジェクトの展開はどのようなお考えでいらっしゃるか。もともとは森林吸収源対策として国が推進している。吸収源対策と所有者の意向調査に

使われる想定で、大都市圏は小学校の木質化などに使われるパターンが多いと聞いている。そのなかで環境大は今後、普及啓発に使っていくのも有意義とは思ふ。整備や意向調査とは別に普及啓発を実施していくという理解でよいか。

→事務局：3年間は同額、以降は段階的に増額ということで、名古屋市に入ってくる譲与税も増加が見込まれる。議案集 28P に示した通り、普及啓発をするにあたっては、課題等の調査などで地域に入り、団体との交流、コーディネートなどもできないかということまで考えている。

→事務局：名古屋市全体としては 8,000 万円の予算があり、最終的には 2 億 6 千万になると見込まれる。ハードものは別途、市にて実施。なごや環境大学はそのなかで「人材育成」として、今年度 500 万円充てられている状況である。

第 4 号議案、第 5 号起案が拍手で承認される。

議決事項ここまで。

アドバイザーボード、参与からの御意見

アドバイザー：千頭様より

実行委員を退任してから初めて総会に来た。輪の中にいた時とそこから出たとき、やはり見えてくるものが違う。自身の反省も込めて言うが、率直に言うと、環境大はチームの足し算になったのかと感じた。元々はなごやを変えたいという思いからスタートし、いろいろな事業を実現するなかで、執行体制としてチーム制をとったと思う。しかしいつのまにかチームを足したのが環境大学になってしまったように思う。例えば全体総括を代表から示されたが、全体の総括を受け、各チームがどう受け止めようとしているかが見えない。予算も各チームの予算が先に決まっていて、未来都市の事業には 0。環境大として SDGs を取り組むならば他のところを削っても SDGs に予算を充てるのでは。それくらいの戦略性が本来はあった。

ぜひともチームを足したら環境大学でなく、環境大学がどうしたいか、それを執行するためにはこの部分はこのチームで、と結果的に割り振られるが、あくまで環境大学がねらいたいことを実現するための手段、ツール、方法である。議論はされていると思うが、過去の幹事会でしていたチーム間の議論も引き続きしていただいて、結果として、「環境大学がなごやを変えているんだ」ということがもっと見えてくるといい。

→大鹿代表幹事：チームの足し算になっている雰囲気が見えているのは仰る通り。ただそういう全体性のある場を設けたいと考えながら実行に移す場がなかなか設けられていない。現体制で自分も、代表幹事ということでチームに属していない委員として、チームが見えていない部分もある。同様に各チーム員の方々も他のチームが見えていないと思う。今日のこの場が、参与、アドバイザーボードの方も含め、なごや環境大学に関わるすべての方が顔を合わせる唯一の機会となっていると言える。今後もこういった場を設けながらいろんな議論をして進めていきたい。皆様のご支援をお願いいたします。

参与：祖山様より

全体的に活動が変わってきているなという印象を受けた。冒頭で学長が仰られたように変革していくということが、4期ビジョンを立てられ、軸足が定まって、それぞれのチームが立案しながら、悩みながら活動を実行し反省している、と感じられた。

種をまいて進めていくというお話があったが、PDCAのCーチェックまでいき、Aーアクションが残っていると思うので、引き続きこの場を学長のお立場で牽引していただきたい。

退任する実行委員の紹介、お言葉

尹委員

7年務めてまいりました。昨年退任の意向を伝えたと引きとめられ、1年間後任の方への引き継ぎなど準備した経緯がある。その1年で客観的に環境大学を見ることをして、専門の違う人がこれだけ集まりうまくコミュニケーションをとっていたということに感心し、その組織に委員としていたということを誇らしく思った。2点感じたことを述べさせていただきます。

まず、10年ルールはよく作られたと思った。人が変わると安定的な運営にはリスクがともなうが、逆に新しい風をふきこむ、新陳代謝ということもある。事務局はつなぎあわせることも大変だとは思っている。また、チーム横断的に事業を進めるために、体制が改変された。ユースチームも入って新しい取り組みに挑戦していただいて、改革してよかったと感じた。自分の反省もあるが、チーム会議のみに参加していると昔とあまり変わっていないように感じていたが、新年度の事業提案を見て、これからますます盛り上がりを見せるのではと思う。日々進化して環境大学を盛り上げていただきたいと祈願している。

涌井学長より閉会挨拶

まずは今回退任される尹先生に御礼申し上げる。皆様共通して仰られているのは、誰がこれをマネジメントしていくのかということ。足し算ではなく掛け算にするのか。今のところ名古屋市のゆりかごのなかで収まっている。できればそれぞれが自ら行動を起こしながら、相互に専門分野やチームを越えどうしたら化学反応を起こしていけるかが重要と思う。

現在、国では大きな流れが2つある。環境省が環境基本計画の中で「地域循環共生圏」という構想を持ち出した。エネルギーを中心に、いかに自然資本財に着目しながら地域の生態系サービスを上手に利活用しながら自律的な地域をどう形成していくか。従来のような東京一極集中のリング型（真ん中とそれ以外）からブドウ型、一つの地域がユニットとなってクラスター状になり、エネルギー、情報、アクセスなどエコロジカルネットワークでつなぎながら分節的な社会構造を日本は目指していくことが重要ではないか。そのために地域の中で再生循環の共生圏のような社会構造をどう作っていくのが重要である。また一方で、国土交通省が昨年末より「第5次社会資本整備重点計画」の中に、グリーンインフラという概念を持ち出している。今までのような構築物では気候変動に対応しきれない。自然資本、生態系の力をうまく活用して社会資本に繰り入

れるという考え方を進めなければ、財政から全てが行き詰る。そのためこの重点計画は経済成長戦略会議にも持ち出されている状況。

これらはよく見ると、単に国の施策を地域が受ける、ではいけないということ。地縁結合型のコミュニティなくして解決できない。誰がマネジメントということも、市民自らが立ちあがってこの方向を目指さない限り、社会的大変容を必要としている世界で、持続的な未来が拓かれない。そのためになごや環境大学が SDGs の問題含めて、地域の人が共助の世界を作りながらコミュニティの力で世界に向かって動いていけるかを考えなくてはならない。行政もまた様変わりしなければならない。これまでのリード型から幹事役。主役は市民。

名古屋はこれから危機に瀕する。リニア新幹線開業により東京へのストロー現象がさらされるなか、経済圏をどう維持するか。国際的な経済圏の課題としても、これまでの大きく重いものから、小さく薄くて付加価値のあるものを作る方向へ変わりつつある。両方の問題に対し共通するのは、環境的な魅力がどれだけあるか。残念ながら国際競争の下での名古屋は環境分野で最悪な点数がついており国際競争指数が結果的に上がらない。他分野は大変な実力があるので、ここに環境が加わればトップの座に飛び出せると思う。また、名古屋で今心配があるのは、名古屋駅の再開発で、大きな課題は災害対策。名駅は脆弱な災害条件である。これを克服してリダンダンシー性、安全面を備えた都市となるには安全性の実装が必要。名古屋ってこんないい街なんだ、という印象をどう作るか、付加価値、感性価値のイメージづくりが必要。SDGs に取り組もうとしているのもそういうことだろう。

森林プロジェクトについて、私は岐阜県立森林文化アカデミーの学長も務めているが、「森の恵みのおもちゃ美術館」、「森林環境総合教育センター（隈研吾が学生を指導し設計）」等も来年 3 月にはオープンする。森林文化アカデミーも協力するので、なごや環境大学も森林の問題を学んでいただければなお有効と思う。

いずれにせよ、社会的大変容に我々がどう行動するのか、せつかく日本にない「なごや環境大学」という活動のチャンスはどう活かすのか、ということで私も出来る限りのことはしていきたいし、場合によっては市の皆さん方に失礼ながら「幹事役に徹してくれ」とお願いするような場面も出てくると思うので、よろしく御協力いただきたい。

その他

中日ドラゴンズエコバッグについてのご紹介

横山委員：名古屋外国語大学は、2017 年になごや環境大学と連携協定を締結。学生とともに環境大学の場を活用させていただいている。昨年から中日ドラゴンズより応援グッズ制作協力の依頼があったため、環境問題を啓発する提案として、学生はエコバッグ制作を考案。学生は全員 20 歳で、ごみ非常事態宣言を知らない世代として、同世代の若者にも使ってもらおうと考えている。6 月 7 日の楽天戦からナゴヤドームにて 1000 枚限定販売。SNS などで啓発しながらごみ非常事態宣言や藤前干潟のことなど広めていきたい。

閉 会

議長よりすべての議事が終了したことが宣言され、寺西主幹から総会の予定がすべて終了したことを伝え閉会。